

六甲山の災害展に ついて(その四)

六甲治山事務所

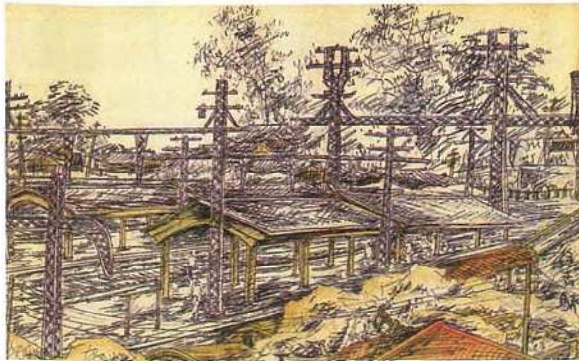
昭和13年 阪神大水害スケッチ

昨年六月阪神・淡路大震災復興支援館で開催した「六甲山の災害展」のうちから、今回は高山超陽画伯の昭和十三年阪神大水害のスケッチを紹介します。

このスケッチ集は、災害当時神戸市山地課長であった故山本吉之助氏の蔵書から発見され、山本宗生氏から兵庫県に寄贈されたものです。被害の状況、町の様子、水害の後始末に取り組む人々の姿など、貴重な歴史の一コマが、軽快なタッチで描かれています。



住吉川(東灘区)

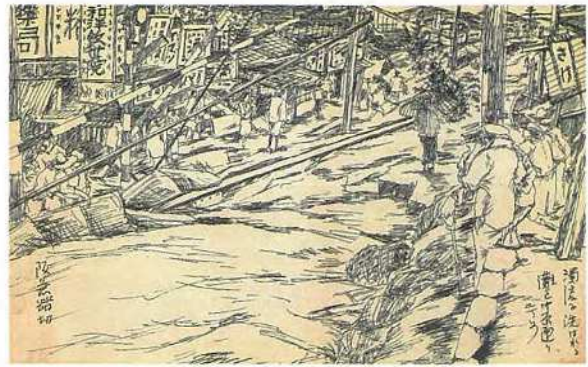


住吉駅(東灘区)



宇治川筋(中央区)

高山超陽画伯について
 高山超陽は、大佛次郎らの推奨状によると荒木寛畝門下で昭和六年頃には鎌倉で修行を行っていたようです。昭和十六年に大阪三越で個展を行い、花鳥画二〇点を出展したこと及び昭和二十八年まで長田区に居住していたことなどが現在わかってはいるすべてで、足跡はほとんど残されていません。超陽画伯がスケッチを描いた昭和十三年当時は、神戸市に居住していたものと思われます。



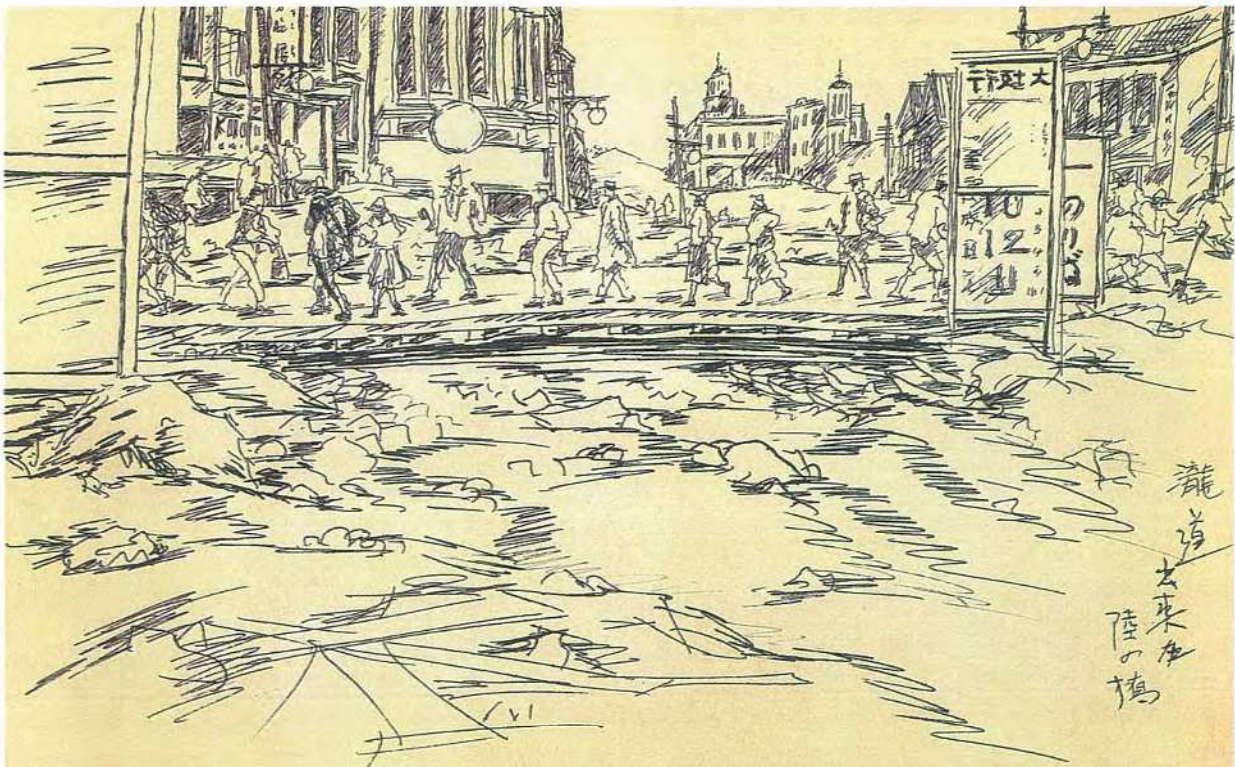
濁流に洗われる灘区中原通り2丁目



灘区五毛十字路 逆巻く濁流



大石川 (灘区)



龍道出来た陸の橋 (中央区三宮駅南)

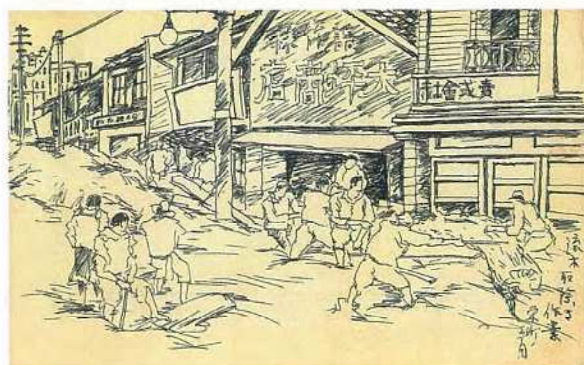
昭和13年 阪神大水害スケッチ



荒田付近 (兵庫区)



平野付近 (兵庫区)



栄町3丁目 流木取除き作業 (中央区)



加納町 (中央区)



栄町3丁目

栄町3丁目 (中央区)